

第2回 持続可能な交通安全施設の整備の在り方に関する検討会 議事概要

1 開催日時

令和2年10月30日（金） 10:00～12:00

2 開催場所

奈良県警察本部4階 第一会議室

3 委員等

(1) 委員

(委員長)	蓮花 一己	帝塚山大学学長
(副委員長)	飯田 克弘	大阪大学大学院准教授
(委員)	中村 秀雄	(一財) 奈良県老人クラブ連合会会長
	原 久弥	国土交通省近畿地方整備局奈良国道事務所長
	西橋 奈穂	奈良県こども・女性局女性活躍推進課長
	岡部 共成	奈良県県土マネジメント部道路政策官
	六車 憲雄	奈良県県土マネジメント部道路保全課長
	稲葉 功	奈良県教育委員会保健体育課長
	山崎 友宏	奈良県警察本部交通部長
	金田 実	奈良県警察本部交通部参事官
	今村 浩三	奈良県警察本部交通部交通規制課長
	松岡 成明	奈良県警察本部交通部交通管制官

(2) 事務局

奈良県警察本部交通部交通規制課

4 議事進行

(1) 開会

- ・ 事務局より開会を宣言
- ・ 奈良県警察本部交通部長より挨拶

7月14日に開催した第1回検討会においては、「交通を取り巻く環境」や「交通安全施設の老朽化の現状」等を踏まえて活発に議論していただき、様々な御意見をいただいた。本日は第1回検討会の「ふり返し」の後、「中長期的視野に立った交通安全施設整備の在り方に関する考え方」をテーマとして、交通安全施設の「整備」や「維持管理」の方向性について、委員の皆様方、それぞれのお立場から、忌憚のないご意見を賜り、検討を更に深めて参りたい。

(2) 出席者

事務局より六車委員の代理出席者として、辻井伸治（道路保全課主幹）を紹介
そのほかは第1回と変更がないため紹介は割愛

(3) 議題１「第１回検討会のふり返し」

事務局から資料１「第１回持続可能な交通安全施設の整備の在り方に関する検討会議事概要」及び資料２「奈良県における持続可能な交通安全施設の整備の在り方に関する検討会概要」について説明。当該資料の内容及び奈良県警察のホームページへの掲載に関する異議が無く、委員に承認された。

(4) 議題２「中長期的な視野に立った交通安全施設整備の在り方に関する基本的な考え方」

- ア 交通安全施設の整備の方向性
- イ 交通安全施設の維持管理の方向性
- ウ 一灯点滅式信号機が設置された交差点の安全対策
- エ 自由討議

(5) 委員意見

- ・ 信号機については新設要望が多い。県民や議員は、要望しても新設されないのは、予算がないためと思われるので、警察は「信号機設置の指針」に従って設置しており、安全と円滑の両方を考え、必要なところにはしっかり予算要求を行って設置していると繰り返し説明しているところ。
その一方で、必要性が低下した信号機については、県警察のホームページで意見募集を行っているが、信号機の撤去については、安全上の不安から住民に受け入れていただきにくい。住民の理解を得るためには、どんな進め方がいいのか、意見をいただきたい。
- ・ 信号機以外の選択肢が思い浮かばないのではないか。「危ないから信号機」と単純なところに直ぐ話を持って行ってしまふ。「二段階横断」や「ハンプ」など、様々な対策が全国で広まっているが、奈良県では進んでいないこともあり、こうした選択肢が住民や議員に思い浮かばないのではないか。信号機に代わる安全対策があり、それによって事故や速度が減っていることをアピールして、議員からも住民に伝えてもらうことがいいと思う。ドイツでは市長セミナーといって交通安全がいかに大切かや、安全対策の選択肢を教えるプログラムがある。トップが理解していないと対策が進まないの、議員に対しても信号機以外の安全対策を伝えるセミナーなどがあってもいいのではないかなと思う。
- ・ 信号機の歩行者早出し現示は、導入した交差点での横断歩行者の事故が減ったということなので有効な対策と思う。しっかりと広報することで、ほかにも導入して欲しいと要望が出ると思う。
- ・ 通学路や保育所等のお散歩経路を含め、交通安全、防災、防犯という３つの観点から、各学校等で危険箇所の洗い出しを行うとともに、警察や道路管理者が持っているデータと合わせていきながら、通学路等の安全をきちっと整備しようと今現在取り組んでいるところ。信号機のことなど、学校の先生等には分からないところがあると思うので、警察、道路管理者、学校、地域住民と連携した安全点検など、地域連携の場を利用し、各警察署や道路管理者から助言をいただきながら安全な通学路等を完成させていければいいと思う。

- ・ 信号機の設置は、「信号機設置の指針」で判断されていることがよく分かったが、信号機は一般に認知度が高く、信号無視などの違反が極めて明確。運転者から見た時の違反に対する抑止力も極めて強い。だから信号があるとそれを守るために徐行したり、停止したりすることが増えてくる。それが住民目線。交通管理者が信号機を設置する条件と少し違うと思う。住民が要望してくる観点と交通管理者で信号を設置管理する基準が、必ずしも一緒ではないことを分かった上で、住民が何を求めているかを認識し、何をサービスしていくのかをしっかりと考えた方がいいと感じた。
- ・ ハンプが成功している例の特徴としては、その道路の使い方があまり変動しないような道路。例えば第一種住居専用地域。住宅を区画しているような道路や、町の出入口がわりと制限されている地域の出入口に設置されたハンプはかなりの効果を発揮している。交通の状態が大きく変わってしまうと、最初効いていたハンプも効かなくなる場合があるので、道路の使い方が変動しそうなところにハンプを設置する場合には注意が必要。地域の実情も勘案して設置を検討された方がいい。一度設置したハンプを撤去することも大変なので、適材適所に設置する。
- ・ 他県であるが、中学校等の通学路の安全対策をしていたときに、きちんとした校区地図がなかったので作成すると極めて喜ばれた。校長室にも貼れるし、防犯にも使える。今後は、交通事故情報のデータベースと校区をドッキングさせて、そこに通学路の対策もアップしていけば、通学路の状況や今までの変遷状況が分かり、住民や保護者との協議の上でも役に立つので、近い将来こういう流れになってくと思う。
- ・ 維持管理について、基本的に道路上における道路管理者の施設も警察の施設も、ほとんど構造は同じなので、やはり上から落ちてきそうな施設は5年に1回、下にあるものは10年に1回の間隔で点検するのが適切だろうと思う。高所作業車を使わないで下から眺めても何も分からないので、そこは確実に高所作業車を使っただけければと思う。点検サイクルは、予算的には全部5分割して平準化の方がいいかと思う。職員の異動や点検業者の業界の事情を考えると、点検の期間が空けば、前回どうやっていたか分からないという問題が多々あるので、毎年安定的に行うことで、技術も引き継がれていくので、参考にしていただければと思う。
- ・ 国の道路照明は予算の許す範囲でどんどんLED化している。そうすると維持管理費の球切れのサイクルが延び、電気代も安くなるので、トータルでかなり大きなメリットが出てきているところ。信号灯器もLED化していただけると、見やすいというメリットもあるのでお願いしたい。
- ・ 奈良県でも道路照明については、全てLED化する手続きを進めている。また、区画線や舗装の維持管理について、人間的にも効率化を図る必要があるので、ドライブレコーダーのカメラ等を使用した点検を検討しているが、警察の道路標示と重複するところがあるので、実施するときには連携していきたいと思う。
- ・ 県や警察でするものをどう共同してやっていくか、お金や手間を二重三重にかけられないので、お互い協力し合う仕組み作りも必要になる。
- ・ ドライブレコーダーとAIを活用した道路標示の点検について、道路標示の摩耗状態を3段階で判定する場合、レベル1、レベル2、レベル3の区切りが曖昧であると、AIも迷ってしまい、いつまで経っても正解率が上がらないことがある。実

用的かつ明確になるように、交通管理、道路管理の方で情報共有してしっかり決めないと、絶対いいＡＩができないので、ここが一番重要とご認識していただきたい。

- ・ 一灯点滅式の信号機を無くした場合の安全対策はどのようにあるべきか。止まれをしっかりと明示して、あとは交差点をカラー舗装化して、クロスマークを入れることが先ず基本であると思う。奈良県民の運転の仕方を見ていると、あまりにも道が悪いということもあって、細いところを時速３０～４０キロメートルで普通で走るので、狭窄系、道路を狭くする安全対策は、日頃から慣れているので効かないと思われる。そうすると視覚に訴えて注意喚起を促すしかない。
- ・ 葛城市の例（葛木西交差点を撤去した交差点）が確かに明示していて分かりやすい例である。交通実態を調査し、夜間であれば照明、交差点のカラー舗装の範囲も交差点の外側にまで延びるものも考えられる。速度抑制が視覚的に難しい場合は、薄装舗装などの物理的な対策も案として考えられるので、具体的などころを見て検討すればいいと思う。
- ・ 高齢者代表として申し上げると、近い将来自動運転になるだろうが、それまでは、達者なうちは車を自分で運転して移動手段として使わなければ生活できない状態。視覚に訴える見やすい交差点を作り、信号灯器もＬＥＤに変える。そして自動運転の確かなものの判断基準として白線が引かれていることが基本。自動運転頼みにして高齢者が乗っているのに、それが作動せず事故が起きれば、もう命の交換はできないので、その辺をよく考えてもらって、ただ信号機だけを設置するのが能ではなく、「信号機を設置しなくても、交通安全対策はしっかりしていますよ」という政策をみんなで共有してもらって、住民や議員も信号機を要望するだけではなく、ほかの方法でもっとお金を使わずに安全対策をとれるはず。県民一体となって考えたられば高齢者はもうちょっと安心して移動できるのではないかと思う。
- ・ 一灯点滅式の信号機は運転していても目に入りにくいし、子供も点滅信号の意味を全く分かっていないのではないかと思う。撤去して「止まれ」の表示等、子供でも認識できる方向がいいと思う。子供が通ることも考え、また、交差点だけではなく、抜け道の実態を踏まえ、地域全体で考えたり、ゾーン３０と連動させることも大切である。

(6) 閉会

- ・ 奈良県警察本部交通部参事官より謝辞

本日はご多用中のところご出席いただき、また色んなご意見を賜り心より感謝を申し上げたい。信号機の撤去に関しては、より良い街づくりの観点でお話をすれば理解していただけるのではないかと感じたところ。一灯点滅式の信号機は県内に３０基あるが、ご意見にあったとおり、ドライバーは認識しておらず、老朽化しているのが現実。ご意見をいただいた撤去後の安全対策については、県民性等も踏まえながら今後の対策として浸透させていきたい。第３回は来年１月１９日を予定。今後ともご協力をお願いしたい。

- ・ 事務局より閉会を宣言